

特別講演 1

「腎性貧血治療の意義」

福井大学学術研究院医学部系部門 腎臓病対内科学分野 教授
岩野 正之 先生

慢性腎臓病(CKD)の概念が提唱されて、12年になる。本邦での患者数は約1,300万人と推測されることから、CKDは新国民病といえる。高血圧、貧血および蛋白尿などが、CKDの悪化因子であることが明らかとされており、すべての悪化因子を適切に加療することがCKDの進展抑制に重要である。

腎性貧血の主因は、エリスロポエチン(erythropoietin; EPO)の産生・分泌不足であることから、その治療には赤血球造血刺激因子製剤(erythropoiesis stimulating agent: ESA)の補充療法が必須である。CKDの進展抑制を目的とした腎性貧血の治療には、1)いつから治療を開始すべきか、2)どの程度貧血を改善したら良いのか、3)鉄補充はどのようにすれば良いのか、など考慮すべきポイントが多く複雑である。

そこで本講演では、腎性貧血の治療アプローチをわかりやすく解説したい。